PC-Mapping Ver.8

DM データ(数値地形図データファイル) 作成キット説明書

令和元年12月 作成 令和6年2月 更新 株式会社 マプコン

0

1. インストール	2
2. 構成	3
2-1. メニュー	3
2-2. プロジェクト	4
3. 機能	5
3-1. DM新規プロジェクト	5
3-2. DM表現サンプルプロジェクト	7
3-3. DMインデックスファイル作成	8
3-4. DMデータエクスポート	10
3-5. メッシュ指定によるDMデータエクスポート	13
3-6. (拡張)DM分類・区分コード整合検査	18
4. コマンド処理	19
5. 備考	21
5-1. 点(E5)データの扱いについて	21
5-2. 方向(E6)データの扱いについて(その1)	22
5-3. 方向(E6)データの扱いについて(その2)	23
5 -4. 小物体記号の表示について	24
5-5. 属性(E8)データの扱いについて	25
5-6. 世界測地系でのエクスポート	26
5-7. 拡張DM対応に伴う一部方向データの扱い変更について	27
6. PC-MAPPINGの設定とDMフォーマットとの対応	32
6-1. インデックスファイル作成時ダイアログ	32
6・2. [プロジェクトエキスパート]-[メモ]パネル	34
6・3. [レイヤーエキスパート]-[メモ]パネル	39
6・4. [レイヤーエキスパート]-[アーク]パネル	41
6-5. [レイヤーエキスパート]-[ポイント]パネル	43
7. 更新履歴	46

1. インストール

DM(数値地形図データファイル)作成 KIT は、ライセンスにより機能の認識を行いますので、インストールの必要はありません。

更新時は、Pcm.exeの更新と同時に行われます。

ライセンスは、[スタート]-[バージョン情報]メニューを実行した際に表示される「バージョン情報」ダイアログボックスの記載、もしくは、Pcm.exeと同じフォルダー内にある「PcmLicIDCheck.exe(ライセンス確認プログラム)」で確認することができます。

リボンメニュー:[拡張]-[データ構築]-[DM データ]



- 2. 構成
- 2-1. メニュー



DM 新規プロジェクト ➡「3-1. DM 新規プロジェクト」

- スケルトンの PC-MAPPING プロジェクトを作成します。 DM 表現サンプル ⇒「3-2. DM 表現サンプルプロジェクト」
 - DMの図式表現サンプルプロジェクトを作成します。
- DM インデックスファイル ⇒「3-3. DM インデックスファイル作成」
- DM フォーマットデータのインデックスファイルを作成します。 DM データエクスポート ⇒「3-4. DM データエクスポート」
- PC-MAPPING で作成・編集したデータを DM フォーマットのファイルとして出力します。(DM 図郭 単位のプロジェクトから)
- メッシュ指定による DM データエクスポート ⇒「3-5. メッシュ指定による DM データエクスポート」 PC-MAPPING で作成・編集したデータを DM 図郭メッシュを指定して、 DM フォーマットのファイルと して出力します。
- DM 分類・区分コード整合検査 ➡「3-6. (拡張) DM 分類・区分コード整合検査」 プロジェクト内の DM 分類コード、図形区分、データ区分をチェックします。

JPS・SIMA-DM エクスポート

PC-MAPPING で作成・編集したデータを JPS・SIMA-DM フォーマットのファイルとして出力します。

※DM データのインポートは、PC-MAPPING Ver.8 標準機能:[インポート]-[汎用/GIS]-[DM)]-[DM(ディ ジタルマッピングデータ)]メニューからインポートすることができます。詳しくはヘルプをご覧ください。

		💌 🗠 🔟 📠 🌨	Ŧ									
スタート	ホーム	ワークスペース	1	ンポート	プロジェク	ト 地理院	地区	画面表示	ED	刷	作図	シı
国土基本情報	報 ~	数値地図(ベクター)	~	空間デー		KMLファイル		SIMAデータ	~	DXF	(AutoCad)	
		その他(ベクター)	~			シェープファイノ	٧ ×	MIF/MID(MapIn	fo)	SXF		
基盤地図情報	報 ~	数值地図 (画像)	~	公共測	量等 ~	DM	~	GeoJSON	~	CAD	(その他)	~
		国土地理院					汎	用/GIS			CAD	

2-2. プロジェクト

DMデータを新規作成、または、インポートで作成されるプロジェクトの詳細は、「6.PC-Mappingの設定とDMフ オーマットの対応」をご覧ください。

3. 機能

3-1. DM 新規プロジェクト

[DM 新規プロジェクト]メニューを選択すると、「DM データ新規作成」ダイアログボックスが表示されます。 パラメーターを入力して【OK】ボタンを押すと、新規プロジェクト(スケルトン)を作成します。

DMデータ 新規作成				
作成する図葉コード 09id713	□ 座標系を独立に設定 座標系の設定 >> ダー ダ 世界測地系	√ ∩ @	OK キャンセル	
E:¥請負作業¥D	M作成キット¥作業¥新規作成			
図郭名称	09id713			
タイトル名	都市計画図			
入力機器名	SUMMIT			
承認番号	R01-406			
作業機関名	株式会社マプコン			
数值化区分	6			
取得年月	2201 最終取得年月 0 消去年月	0		
作中十二四一一	- 1*			

<u>アチァル 9 る凶楽コート</u> 新規に作成する DM データの図葉コードを半角で入力します。

☑座標系を独立に設定

このキットでは、図葉コードを指定する事により自動で座標情報を持ちますが、図葉コードにない座標系を設定したい場合にチェックします。

<u>【座標系の設定】ボタン</u>

[座標系を独立に設定]チェックボックスが On の場合、平面直角座標系の設定を行なう事ができます。 このボタンをクリックすると、「直角座標系の設定」ダイアログボックスが表示されます。

直角座標系の設定	×
論理図郭Q) (m)	
左上① 1500 0 右上② 1500 2000	↓ OK ↓ +ャンセル
左下(2) 0 0 右下(3) 0 2000	② ヘルプ(H)
DM図葉コード(D) 同 クリップボードから(B) >> 回 変則図郭	1
 ✓ この座標は世界測地系 JGD2000 です(W) 日本測地系 < > 世界測地 □ この座標は世界測地系 JGD2011 (測地成果2011)です 	 ◆ ◆ ◆ ◆
	(2) EXF>>
付帯情報(A)	Q 参照
系化 09 ~ 縮尺(S) 1 / 2500	
原点座標 E139:50:00.000 N36:00:00.000 ✓ 縮尺係数 0.9999	
▶ 高度な設定	

☑世界测地系

このキットでは、図葉コードを指定する事により自動で座標情報を持ちますが、「座標系を独立に設定」し、世界測地系を設定したい場合にチェックします。

<u> プロジェクトの保存先フォルダー</u>

新規作成するプロジェクトの保存先フォルダを指定します。 【...】ボタンをクリックすると「フォルダの参照」ダイアログボックスが表示されます。 プロジェクトを保存した際に、レイヤーが NAV ファイルとして保存されます。 指定がない場合は、レイヤーが内部データとして作成されます。

<u>図郭名称</u> <u>タイトル名</u> <u>入力機器名</u> <u>承認番号</u> <u>作業機関名</u> <u>数値化区分</u> <u>数億化区分</u> <u>取得年月</u> <u>最終取得年月</u> <u>消去年月</u>

DM フォーマットの「図郭レコード」にセットする内容を入力します。

【OK】ボタンをクリックすると新規プロジェクトが作成されます。



3-2. DM 表現サンプルプロジェクト

[DM 表現サンプルプロジェクト]メニューを選択すると、描画パラメーターセットに登録されている、1:500、1:10 00、1:2500の各図式が表示されたプロジェクトを作成します。



画面上、または、出力により図式形状の確認が行えます。

3-3. DM インデックスファイル作成

[DM インデックスファイル作成]メニューを選択すると、「DM インデックスファイル作成」ダイアログボックスが表示 されます。

パラメーターを入力して【OK】ボタンを押すと、インデックスファイルを作成します。



<u>計画機関名</u>

数値地形図データの作成・更新を計画した機関名(漢字15文字以内)を入力します。

☑転位フラグ

- ON の場合:当該データファイルで、転位処理を行っている
- OFF の場合:当該データファイルで、転位処理を行っていない

☑間断フラグ

- ON の場合:当該データファイルで、間断処理を行っている
- OFF の場合:当該データファイルで、間断処理を行っていない

西暦年号

作業規程が施行された西暦年を入力します。 ≪例≫

2022

<u>作業規程名</u>

使用した作業規程名(漢字 15 文字以内)を入力します。 ≪例≫ 国土交通省公共測量作業規程

☑「系」を指定する

ファイル名に、図郭割り番号を使用していない場合、チェックを ON とすることで、「座標系」が入力できます。 平面直角座標の系番号を入力します。

<u>含まれる図郭ファイル</u>

当該データに含まれる図郭ファイルを、【追加】ボタンで追加します。 【解除】ボタンで登録から解除されます。

<u> 文字コード</u>

作成するインデックスファイルの文字コードを選択します。 ラジオボタンで、以下から選択します。

- ANK(JIS8)
- EBCDIC

<u>漢字コード</u>

作成するインデックスファイルの漢字コードを選択します。 ラジオボタンで、以下から選択します。

- JIS
- EUC
- Shift JIS

<u>レコード</u>

作成するインデックスファイルのレコードタイプを選択します。 ラジオボタンで、以下から選択します。

- CR LF なし
- LFのみ
- CR LF あり

インデックスファイルの保存先

作成するインデックスファイルの保存先を指定します。 フォルダーアイコンをクリックすると「ファイル開く」ダイアログボックスが表示されますので、ファイル名を指定するこ とができます。

拡張子は「*.dmi」(数値地形図(旧拡張 DM 形式)インデックスファイル)となります。

3-4. DM データエクスポート

プロジェクトを開いた状態で、[DM データエクスポート]メニューを選択すると、「DM データエクスポート」ダイアロ グボックスが表示されます。

パラメーターを入力して【OK】ボタンを押すと、現在開いている PC-MAPPING のプロジェクトから DM データフォーマットを作成します。

DMデータ エクスポート							
E:¥請負作業¥DM作	乍成キット¥作業¥エクス	ペポート¥08OD712.d	m	🧀 🔨 ОК			
☑ 拡張DM対応	☑ Ver2対応	□レコード数は図	図郭レコードを含む全レコー	・ド数 🤉 キャンセル			
		0 53 63 6		② ヘルプ(<u>H</u>)			
又子コート(A)	• ANK (JIS8)	OEBCDIC		座標値の単位			
漢字コード(区)	⊂) IS	OEUC	Shift JIS	自動			
レコード(<u>R</u>)	○ CR LFなし	◯ LFのみ	● CR LFあり				
座標	• XY(2D)	\bigcirc XYZ(3D)	☑ 点(E5)は実データ	/なし			
□ プロジェクトメモより	リ図郭座標を設定する	"ZUKAKU"	レイヤーのアークを(傾斜)	図郭とする			
測地成果識別コード	○日本測地系	○世界測地系	● 日本測地系からt	世界測地系へ変換			
○ 世界測地系から#	⋼殻変動パラメ−タによ	補正回数	パラメータコード				
				(4) (3)			
図郭識別コード	● 図郭は切り直され	いている ○それ	1以外				
変換手法識別コード	○ 図郭代表点を座	標変換(1) 🗌 🛛 🖾	郭四隅を座標変換(2)				
	○ 全座標データを座	[標変換(3) ○1-:	3以外の変換(9) 🤇	●それ以外(0)			
同時にエクスポートする	レイヤー(L)		すべて選択(<u>A</u>)	すべて非選択(<u>U</u>)			
1100	6 7 12	0 🔛 0	🈺 0/0/0/0 🔤	0 x 0 📧 🚺 🔨			
- IIII 2100	727 況 764	🔒 o 🔛 o	🈺 0/0/0/0 🔤	0 x 0 📧 🛄			
2200	32 1/2 54		🍇 ٥/٥/٥/٥ 🔤	0 x 0 📧 🛄			
- L 3000			🐶 0/0/0/0 🚈	0 x 0 🕅 🛄			
4200				0 x 0 📧 🛄			
5100	H¥ 30 1∕0 38 NH 80 1∕0 38						
5200	$\begin{array}{c} 16 \end{array} \begin{array}{c} 16 \end{array} \begin{array}{c} 130 \end{array}$		<u>نه</u> 0/0/0/0 ۲				
6200	A 2 7/3 3		فية 0/0/0/0 على ا	0 x 0 🕅 🛄			
6300	424 🎲 840	0 12	34 😺 0/0/0/0 🔤	0 x 0 📧 🛄 🗸			
<				>			

<u>図郭(図葉)ファイル</u>

エクスポートする DM データフォーマットのファイル名を入力します。 フォルダーアイコンをクリックすると、「ファイル名を付けて保存」ダイアログボックスが表示されます。 拡張子は「*.dm」が自動でセットされますが、変更が必要な場合はここで修正して下さい。

<u> ☑ 拡張 DM 対応</u>

● ON の場合:拡張 DM フォーマットでエクスポートします。

☑Ver2 対応

ON の場合:データファイル仕様 Ver.2 でエクスポートします。
 ※チェックが ON の場合、[プロジェクトエキスパート]-[メモ]パネルでの「Ver=*」の記述よりこの設定が優先され、「図郭レコード」には「2」とセットされます。
 ⇒「6-2. [プロジェクトエキスパート]-[メモ]パネル」

<u> ロレコード数は図郭レコードを含む全レコード数</u>

- ON の場合:このファイルの全レコード数を出力します。
- OFF の場合: ヘッダー部分を省いたレコード数を出力します。

<u> 文字コード</u>

出力する DM データフォーマットの文字コードを選択します。

ラジオボタンで、以下から選択します。

- ANK(JIS8)
- EBCDIC

<u>漢字コード</u>

出力する DM データフォーマットの漢字コードを選択します。 ラジオボタンで、以下から選択します。

- JIS
- EUC
- Shift JIS

<u>レコード</u>

出力する DM データフォーマットのレコードタイプを選択します。 ラジオボタンで、以下から選択します。

- CR LF なし
- LFのみ
- CR LF あり

<u>座標</u>

出力する DM データフォーマットの座標を選択します。 ラジオボタンで、以下から選択します。

- XY(2D)
- XYZ(3D)

☑点(E5)は実データなし

ON の場合:点(E5)データの座標値を「代表点の座標値」にセットし、実データレコードは作成しません。
 ⇒「5.1. 点(E5)データの扱いについて」

☑プロジェクトメモより図郭座標を設定する

- ON の場合:前景レイヤーの図郭座標から図郭レコードの座標値を決めずにプロジェクトの[プロジェクト エキスパート]・[メモ]パネルの座標値から設定します。
 - ⇒「6-2. [プロジェクトエキスパート]-[メモ]パネル」

☑ "ZUKAKU"レイヤーのアークを(傾斜)図郭とする

● ON の場合:プロジェクト内の"ZUKAKU"レイヤーのアークを図郭とします(斜め矩形で図郭割りを行う 場合)。

<u>測地成果識別コード</u>

ラジオボタンで、以下から選択します。

- 日本測地系
- 世界測地系
- 日本測地系から世界測地系へ変換
- 世界測地系から地殻変動パラメータによる補正
 - ▶ 補正回数:補正回数をプルダウンリスト(1~5)から選択
 - パラメータコード:補正に使用したパラメータコード
 ※ この補正設定値は、図郭レコード(d)の73カラム目以降に格納

<u>図郭識別コード</u>

ラジオボタンで、以下から選択します。

- 図郭が切り直されている
- それ以外

<u>変換手法識別コード</u>

座標変換を行なった場合、ラジオボタンで、以下から選択します。

- 図郭代表点を座標変換(1)
- 図郭四隅を座標変換(2)
- 全座標データを座標変換(3)
- 1-3 以外の変換(9)
- それ以外(0)

同時にエクスポートするレイヤー

デフォルトで、【すべて選択】状態になっています。 レイヤー名をクリックし、DM データフォーマットとしてエクスポートするレイヤーを指定できます。 【すべて選択】ボタンで全レイヤーが選択状態となり、【すべて非選択】ボタンで全レイヤーが非選択状態となり ます。

【OK】ボタンをクリックすると、DM データフォーマットのファイルが作成されます。

注意点 分類コードの値が0以下10000以上の場合は、出力されません。 また、出力レコードが1件もない場合は、ファイル作成されません。

3-5. メッシュ指定による DM データエクスポート

全域データプロジェクトから、メッシュ指定で DM データエクスポートを行います。 まず、PC-MAPPING の通常メニューで、メッシュデータのレイヤーを作成します。

- 🌺 プロジェクトエキスパート (エクスポートプロジェクト) <u> レイヤ-</u> プロジェクト名(N) **≬**____ 🧕 表示モード エクスポートプロジェクト 🛃 描画パラメーター レイヤー検索(E) 🕨 🎁 🚯 א-ר * ~ **** 環境-1 ニュートプロシ C. 追加(A)... *4/2 環境-2 ₩ 0/0/0/0 🔤 1100 ٥ 13 1.1 2 0 0 0 x 0 🌌 解除(<u>R</u>) € 属性データベース A₽ 0 👬 2100 2480 报 2676 屇 0 ₩ 0/0/0/0 🔤 0 x 0 🌆 2200 A₽ 467 🕏 743 冒 8:3 ₩ 0/0/0/0 🔤 ŧ 保存(<u>S</u>)... 🛋 広域イメージ 0 2 0 x 0 🌋 2400 Â Ŵ 0 ₩ 0/0/0/0 🔤 18 22 冒 0 x 0 🌆 0 🖾 広域ベクター P 排他制御(L) AV AV 42 1/4 23 1/4 0 ₩ 0/0/0/0 🔤 0.0 2600 53 日 0 0 x 0 🌌 🔁 背景ピクチャー **1** 内部データ(<u>l</u>) 0 2800 31 0 ₩ 0/0/0/0 🔤 0 x 0 🌆 🖾 標高メッシュ AU AU 0 👬 **3000** 1625 況 1668 屇 0 ₩ 0/0/0/0 🔤 0 x 0 🌆 [] 表示・非表示(D) 🖄 TIN 0 🔛 3500 0 怊 0 日 10 ₩ 0/0/0/0 🔤 0 x 0 🚿 表示 非表示 AU AU 120 📈 0 6/0/0/0 🔤 **3600** 122 冒 1.0 0 x 0 🐼 ▶ クイックシェイプ 0 0 🔛 怊 3800 0 0 1 ₩ 0/0/0/0 🔤 0 x 0 🌆 1.0 ₩ 編集可·不可(N) 🚈 エリアマップ A. 4200 16 肦 17 日 0 13 109 😺 0/0/0/0 🔤 0 x 0 📧 編集可 編集不可 🕮 背景プロジェクト A. 804 况 1013 屇 0 📅 37 😺 0/0/0/0 🏧 0 x 0 🌌 U 62 10 8 10 ■ スクリプト Â 0 👪 4025 😺 0/0/0/0 🏧 5200 70 晑 0 x 0 🌆 i 新規フォルダ−(E) 0 0 😺 0/0/0/0 🔤 5600 8.0 11 0 x 0 🌌 1 上へ ■ キーリスト - 下へ 💹 ツリープロパティ 🦉 前景レイヤ−(E) JTK 🖾 *響* レイヤ−エキスパート < 「ヨリビジョン管理 > ✓ OK 「 キャンセル ⑦ ヘルプ
- 1. エクスポート対象となる DM プロジェクトを開きます。

2. [ツール]-[表示領域]-[図郭コード等の算出]メニューを実行すると、「表示領域の図郭コード等」ダイアログ ボックスが表示されます(画面上で表示されている領域より、一回り外側までのコードが表示されます)。

表示領域の図郭コート	表示領域の図郭コート等 X						
1次メッシュコード	2次メッシュコード	3次メッシュコード	4次メッシュコード	1/2500DM図葉コード	1/1000DM図葉コード	1/500DM図葉コード	1/250DM図葉コード
5841 ^	584156 ^	58415612 58415613 58415614 58415616 58415616 58415617 58415618 58415619 58415622 58415624 58415624 58415624 58415625 58415626 58415627	584156023 584156024 584156033 584156043 584156043 584156043 584156053 584156054 584156054 584156064 584156073 584156074 584156084	10ng303 10ng304 10ng313 10ng314 10ng323 10ng324 10ng301 10ng301 10ng312 10ng312 10ng321 10ng322 10ng331	10ng302c ^ 10ng302d 10ng312a 10ng312b 10ng312c 10ng312d 10ng312c 10ng322a 10ng322b 10ng322c 10ng322c 10ng322c 10ng322c ×	10ng3054 10ng3055 10ng3056 10ng3057 10ng3058 10ng3059 10ng3150 10ng3151 10ng3152 10ng3154 10ng3155 10ng3155 10ng3157 V	10ng30li 10ng30lk 10ng30lk 10ng30lm 10ng30lm 10ng30ln 10ng30lo 10ng30lo 10ng30lc 10ng30lr 10ng30ls 10ng30lt 10ng31la 10ng31lb
שר 🔁	-שב	שב 🔁	שב 🔁	שר 🔁	שר 🔁	-שב 🖷	ביר 🔁
王 レイヤーデータ化	互 レイヤーデータ化	Ξ レイヤーデータ化	🧕 レイヤーデータ化	至 レイヤーデータ化	互 レイヤーデータ化	互 レイヤーデータ化	至 レイヤーデータ化
		直角座標系の)「系」指定	✓ ② ∧ル	プ(<u>H</u>)	ОК	

「1/2500DM 図葉コード」の【レイヤーデータ化】ボタンをクリックすると、リストのそれぞれの図郭枠を「1アーク 1 ポリゴン」化したレイヤー(ZUKAKU)を作成し、現在のプロジェクトに追加されます。

【レイヤーデータ化】ボタンをクリックし、「表示領域の図郭コード等」ダイアログボックスは、【OK】ボタンで閉じます。

3. 「ZUKAKU」レイヤーが追加されていることが確認できます。

🏰 プロジェクトエキスパート	+(I	ウスポートプロジェクト)		
「二」レイヤー	^	プロジェクト名(N)		5 д.,
👰 表示モード		エクスポートプロジェクト		
🛃 描画パラメーター		レイヤー検索(E)	✓ ▶ M & y-k	
🏰 環境-1		▲ エクフポートプロジェクト		
🏰 環境-2			Q 1 以 2 周 0 ₩ 0 ₩ 0/0/0/0 四 0x 0 M Ⅲ	
┏━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━======		1 2100	AV 2480 1 2676 □ 0 1 0 ↓ 0/0/0/0 □ 0 × 0 1 1	┗圖 門中际(比)
💷 広域イメージ		2200	👥 467 🖏 743 🗐 0 🔛 2 😺 0/0/0/0 🔤 0x 0 💌 🛄	↓ 保存(<u>S</u>)
🖾 広域ベクター		2400	R 18 1 22	
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□		2600		🚹 内部データ(<u>1</u>)
心 標高メッシュ		1112800		+ ≠ + = db + = (b)
🖄 TIN		3500	A 0 ¹ ⁄ ₄ 0 □ 0 ¹ ⁄ ₄ 0 □ 0 ¹ ⁄ ₄ 0/0/0/0 ¹ ⁄ ₄ 0 × 0 ■ 10	↓ 表示・非表示(<u>D</u>)
▶ クイックシェイプ		3600	👭 120 況 122 🗟 0 🔛 0 😺 0/0/0/0 🔤 0x 0 💌 🛄	表示 非表示
🚈 エリアマップ		3800	❶ 0 1 0 🗟 0 🔛 1 🐓 0/0/0/0 🔤 0× 0 厕 🛄	₩ 編集可·不可(N)
── 背景プロジェクト		4200	H♥ 16 1/3 17 🗟 0 🔛 109 👽 0/0/0/0 🔤 0 x 0 💌 🕕	編集可 編集不可
💻 スクリプト		5100	$\begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	
😷 マウスイベント		5500	Image: Note of the state o	■ 新規ノオルター(<u>E</u>)
		ZUKAKU	📭 35 🔣 35 🖪 35 🔛 0 🎶 0/0/0/0 🚟 0× 0 💌 🛄	1 <u>L</u>
🔍 ツリープロパティ				➡ 下へ
XT				🍯 前景レイヤー(E)
 「ヨリビジョン管理	\checkmark	<	>	줄 レイヤーエキスパート
			✓ OK ↓ キャンセル	

4. 「ZUKAKU」レイヤーを修正します。

レイヤーエキスパートを表示し、「ZUKAKU」レイヤーを「@DMZukaku」に変更します。

🊣 レイヤーエキスパート (ZUK	ikaku)	×
कि ४७टर	レイヤー @DMZukaku	
7-7	R 35 13 13	
	0 0 0 0	

5. ポリゴンの内部属性には「Code」フィールドが作成され、図郭コードが転記されています。

🌺 レイヤーエキスバート (@D	MZukaku) X
٤٦٢٤ (表示設定(1) 前景(編集可) > < 背景へコピー 内部ID
	☑ フィル 低位(背景イメージの上、線形の下 > □ 代表点 □ 代表点に表示
<u> </u>	□ 面積 □ 周長 □ 拡張パターン □ 横並びで表示(出)
→○ ノ−ド	✓ ユニオン代表表示 □ 画面回転に連動しない ☑ サイズ固定(E) □ 選択強調表示なし
בעבעיא 🕂	表示フォント(E) Yu Gothic UI 10 Point A 参照(B) □「拡張グラフィックス」を適応しない
11 Rev	縮尺が 1 / 0 以上 1 / 0 以下で表示
בלעא 🌆	内部属性 フィールド名 フィールド型 表示 主描画 従描画 ダ スクロール
تر الله الله	1 Code 文字型 ✔
イメ ージ	

※2.で[ツール]-[表示領域]-[図郭コード等の算出]メニューを実行した際に、メッシュポリゴンに自動でDM 図葉コードがセットされています。

6. ポリゴン内部属性を設定します。

●5.の「Code」フィールド名を「aCode」に変更します。 ※名称のみの変更です。

属性フィールドの設定	×
フィールド名(L) Code スタイル(S) 文字型 表示析教(M) 0 フィールド幅(E) 約 9 文字分 接頭語(H) (文字列の場合) 空文でも接頭語、接尾語を表示 旧大情報保護フィールド 空白文字の置換表示	 ✓ OK Tイールド名:Code スタイル:文字型 スタイル:文字型 ①計算フィールド ⇒式:ucase({aCode})
□ データベースリンク □ マルチ □ データベースリンク (他フィールド参照) 拡張 >> ■ キーデ 参照フィールド(E) データベース(D) を キーフィールド(K) データフィールド(K) データフィールド(V) □ 計算フィールド □ トリガー計算フィールド □ モード1 書式 式 □ ucase((aCode))	リンク表示 夕も併記する

❷新規に「Code」フィールドを追加します。

❸新規に「NAME」フィールドを追加します。

属性フィールドの設定	×
フィールド名(L) NAME スタイル(S) 文字型 左寄せ 素示析教(M) 0 フィールド幅(E) 一	 ✓ OK キャッセル マイールド名:NAME スタイル:文字型 スタイル:文字型 ③ 計算フィールド ⇒式:ToZen({Code}) ○ オンドウ非表示(M) ○ オンドウ非表示(M) ○ オンドウ非表示(M) ○ 検索メニュー等非表示 □ スカ規則を適応 半角入力(IMEをオフ) □ 全角入力(IMEをオン) □ 入力禁止(表示のみ)
□ データベースリンク □ マルチ □ データベースリンク(他フィールド参照) 拡張 >> ☆ 振フィールド(B) ボ データベース(D) 全 キーフィールド(K) ・ データフィールド(K) ・ ブータフィールド(K) ・ ブータフィールド(K) ・ ゴータフィールド(K) ・ ブータフィールド(L) ・ ・ ・	リンク表示 - 夕も併記する - シン

 図郭レコードに記載される内容は、[プロジェクトエキスパート]-[メモ]パネルに登録されています。
 図葉単位でエクスポートする際に、ポリゴン内部属性として下記のフィールドが設定してある場合は、その 値がエクスポートされます。
 この説明書では、6.までで、①CODE(図郭識別番号)と②NAME(図郭名称)を設定しています。
 ⇒[6-2. [プロジェクトエキスパート]-[メモ]パネル」

※DMインポート時に作成される「@ZUKAKU」レイヤーは、図郭アーク線データです(メッシュポリゴンにはなっていません)。

この属性に、図葉レコード記述内容が記載されています。

この属性を「@DMZukaku」レイヤーの図郭ポリゴンに転記して利用する事もできます。



8. 「@DMZukaku」レイヤーを前景にし、エクスポート対象の図葉を選択します。 [選択]-[個別選択]-[ポリゴン]メニューを実行すると、ポリゴン選択モードとなります。 エクスポート対象の図郭ポリゴンを指定します。



 [拡張]-[データ構築]-[DM データ]-[メッシュ指定による DM データエクスポート]メニューを実行すると、 「DM データエクスポート」ダイアログボックスが表示されます。 ファイルの保存先の他、各オプションを設定して【OK】ボタンをクリックします。 指定したフォルダーに図葉単位の DM データファイルが作成されます。

「@DMZukaku」レイヤーがない、または、レイヤーが存在していても出力対象メッシュが選択されていない場合は、以下のメッセージが表示されます。



1.~6. の手順でレイヤーを生成し、

8. の手順でポリゴンを選択してから実行してください。

【注意点:メッシュレイヤー「@DMZukaku」に関して】

同一プロジェクト内に複数の「@DMZukaku」レイヤーが存在する場合、正しくエクスポートされません。 出力の単位となるメッシュレイヤーのみを「@DMZukaku」レイヤーとし、それ以外は一時的にリネームして (「@DMZukaku」以外として)から処理を行ってください。

3-6. (拡張)DM 分類・区分コード整合検査

プロジェクトを開いた状態で、[拡張]-[データ構築]-[DM データ]-[(拡張)DM 分類・区分コード整合検査]メニュ ーを選択すると、「(拡張)DM コード・図形・レコード区分整合検査」ダイアログボックスが表示されます。 パラメーターを入力して【OK】ボタンを押すと、現在開いているデータの整合検査を行ないます。

(拡張) DMコード・図形・レコード区分整合検査 ×							
□ 独自のコードテーブルを使用する	内部コードテーブルをファイルへ出力 >>	1∕ 実行					
	r	🚺 閉じる					
	+7	② ヘルプ(<u>H</u>)					
 □-Fy-jucasy-yetj-cocyst □-ドテーブルにないデータは無視する 	93						
同時に検査対象するレイヤー(1)	すべて 躍択(Δ)	すべて非選択(U)					
↓ 2100 ↓ 4067 ₺ 4447 ↓ ↓ ↓ ↓ 1454 ↓ ↓ ↓ ↓ 1454 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓	0 33 0 34 0/0/0/0 33 0 33 48 34 0/0/0/0 33 0 33 0 34 0/0/0/0 33 0 33 0 34 0/0/0/0 33 0 33 0 34 0/0/0/0 33 0 33 0 34 0/0/0/0 33 0 33 280 34 0/0/0/0 33						
検査結果 レイヤ-(7200) アーク : 3032 コード 7211:95 レイヤ-(7200) アーク : 3033 コード 7211:95 レイヤ-(7200) アーク : 3034 コード 7211:95 レイヤ-(7200) アーク : 3035 コード 7211:95 レイヤ-(7300) アーク: 3035 コード 7211:95 レイヤ-(7300) アーク: ポイント:2959 レイヤ-(8100) アーク:0 ポイント:308 レイヤー(@ZUKAKU) アーク:4 ポイント:0	1:E2 検査テーブルに図形区分一致データなし 1:E2 検査テーブルに図形区分一致データなし 1:E2 検査テーブルに図形区分一致データなし 1:E2 検査テーブルに図形区分一致データなし						

ONの場合:ファイル名入力ボックスが有効となりますので、コードテーブルを指定します。
 ※「独自のコードテーブル」は、以下の形式で作成して下さい(1行目は不要です)。

	1 2 2	11:10	
分類コード	レベル	図形区分	データ区分
1101	1000	0	2
1102	1000	0	2
1103	1000	0	2
			7 10-

 OFF の場合:内部で登録されているコードテーブルを使用します 【内部コードテーブルをファイルへ出力】ボタンでファイル出力できます。

●コードテーブルにないデータをエラーとしてリストする

●コードテーブルにないデータは無視する

処理方法をラジオボタンから選択します。

同時に検査対象とするレイヤー

検査対象となるレイヤーを選択します。 複数のレイヤーを同時に指定できます。

【内部コードテーブルをファイルへ出力】ボタン

ボタンをクリックすると、「名前を付けて保存」ダイアログボックスが表示されます。 内部コードを CSV 形式で保存します。 内部コードは、縮尺 1/500,1/1000,1/2500,1/5000 に対応しています。

<u>【コピー】ボタン</u>

ボタンをクリックすると、「検索結果」に出力されたエラーリストをクリップボードにコピーします。 メモ帳等のエディターにペーストし、確認に利用することができます。

4. コマンド処理

```
DM データ作成の各メニュー機能は、コマンドラインバーからの入力でも実行できます。
```

- DM 新規プロジェクト DmNew
- ② DM 表現サンプルプロジェクト DmLegend
- ③ DM インデックスファイル DmIndex

```
④ エクスポート
```

```
DmExport \triangle para1 \triangle para2 \triangle para3 \triangle para4 \triangle para5 \triangle ... para13
   Para1:図郭(図葉)ファイル
      保存する DM データのファイルパス
  Para2:拡張 DM 対応
      0=Off
      1=On(拡張 DM フォーマットで出力します)
  Para3:レコード数は図郭レコードを含む全レコード数
      0=Off(ヘッダー部分を省いたレコード数を出力します)
      1=On(このファイルの全レコード数を出力します)
  Para4:文字コード
      0=ANK(JIS8)
      1=EBCDIC
  Para5:漢字コード
      0=JIS
      1=EUC
      2=Shift JIS
   Para6:レコード
      0=CR LF なし
      1=LF のみ
      2=CR LF あり
  Para7:座標
      0 = XY(2D)
      1=XYZ(3D)
      2=点(F5)は実データなし
  Para8: プロジェクトメモより図郭座標を設定する
      0=Off(図郭座標から図郭レコードの座標値を決定します)
      1=On(図郭座標から図郭レコードの座標値を決めずにプロジェクトの[メモ]パネルの座標値から
      設定します。)
  Para9: "ZUKAKU"レイヤーのアークを(傾斜)図郭とする
      0=Off
      1=On
  Para10:測地成果識別コード
      プロジェクトの図郭座標が日本測地系の場合、選択できません(必ず日本測地系出力)。世界測
      地系の場合、1.2のみ選択できます。
      0=日本測地系
      1=世界測地系
      2=日本測地系から世界測地系へ変換
  Para11:図郭識別コード
```

0=図郭は切り直されている 1=それ以外 Para12:変換手法識別コード 0=図郭代表点を座標変換 1=図郭四隅を座標変換 2=全座標データを座標変換 3=0~2以外の変換 4=それ以外 Para13:同時処理レイヤの設定(省略可) 0=全て非選択 1=全て選択(省略した場合) 直接レイヤを指定する場合は、レイヤ名を順番に列挙する。 <レイヤ名1> <レイヤ名2> … <レイヤ名n>

<処理内容>

パラメーターが正常な場合、DM データフォーマット形式に変換してファイルへ出力します。 パラメーターが異常な場合、DM データのエクスポートダイアログが表示されます。

5. 備考

5-1. 点(E5)データの扱いについて

DMデータ エクスポート				X
図郭(図葉)ファイル				
				🖌 🗸 ОК
□ 拡張DM対応	Ver2対応	🗌 レコード数は図	国郭レコードを含む全レコード数	↑ キャンセル
		<u> </u>		② へルプ(<u>H</u>)
文字コード(A)	ANK (JIS8)			応煙値の単位
漢字コード(比)	\odot JIS	◯ EUC	Shift JIS	自動 ~
レコード(R)	〇 CR LFなし	\bigcirc LFのみ	・ OCR LFあり	1
座標	• XY(2D)	O XYZ(3D)	✓ 点(E5)は実データなし	

DM フォーマットデータのエクスポート時に「点(E5)は実データなし」チェックボックスを ON にした場合、点(E5) データの座標値を「代表点の座標値」にセットし、実データレコードは作成されません。 ⇒「3-4. DM データエクスポート」

≪エクスポート例≫

ON の場合

•															
H 4200	0	1	3	0	0		0 0	0	3		0	0	009901	3	3↓
E54221	1	2	00560	00	0	0	100695	62718		0	0		0004		4
E54221	2	2	00560	00	0	0	107244	72290		0	0		0004		\downarrow
E54221	3	2	00560	00	0	0	90870	78084		0	0		0004		\downarrow
4															

② OFF の場合

Ψ															
H 4200	0	1	3	0	()	0	0	0	3	0	0	009901		3↓
E54221	1	2	03560	00	0	1		0	0		0 0		0004		1↓
100695	62718		0	0		0		0	0		0	0	0	0	04
E54221	2	2	03560	00	0	1		0	0		00		0004		1↓
107244	72290		0	0		0		0	0		0	0	0	0	0+
E54221	3	2	03560	00	0	1		0	0		00		0004		1↓
90870	78084		0	0		0		0	0		0	0	0	0	\downarrow

5-2. 方向(E6)データの扱いについて(その1)

作業規程による「方向」の定義は、『ある点に対する方向を示す場合に用いるもので、2つの座標値を組みとして 方向を示す』となっています。 そのため、本キットでは、

真位置をアークで取得し、表示の際にはポイントで表示する(真位置データと表示用データの2つが必要)
 ポイント位置と回転角度で真位置を表示する(ポイントデータのみでよい)

以上の2パターンに対応しています。

ポイントデータのみで対応する場合、以下のようになります。

 ① 新規作成 ポイントで取得し、回転をかける。(アークを別途取得する必要なし) ≪例≫ 流水方向(分類コード:5241)



② インポート

インポート時のダイアログボックスで、方向データの扱いを指定します。 読み込むファイル(E) V OK ↑ キャンセル ⑦ ヘルプ □追加(A) □ 解除(R) すべて解除 系(図葉識別番号を使用していない場合) 08系 \sim ヒント >> レイヤー分け ✓ ✓ 属性Zはmm単位 分類コード上位2桁でレイヤー分けする 📄 🗌 図形区分99を無視 制御ファイル ✓ 方向データをポイントに保存 □有線柱、電話柱、電力柱もポイントに変換 □ 間断区分を描画モーに反映させる □ 注記は別レイヤーに生成 □ 「面 」データをポリゴン化 □ 描画キーを実データとし、分類コード、図形区分を計算フィールドにする(描画速度は向上します) □ 文字列のマスクに「マスク」フィールドではなく、「フォントの縁取り」で対応する **ON**の場合:

方向データの座標値は、ポイントの位置と回転角度としてインポートされます。 OFFの場合:

方向データの座標値は、アークの始点、終点としてインポートされます

③ エクスポート

内部属性の「レコードタイプ」フィールド値が「6」の場合、

- ・ポイントで取得⇒ポイント位置座標値と回転角度から計算した座標値を方向データの座標値とする(長さは自動設定)
- ▶ アークで取得⇒始点座標値、終点座標値を方向データの座標値とする

5-3. 方向(E6)データの扱いについて(その2)

(※) 拡張 DM では、方向の扱いが明確になっておりますので、下記の注意は不要です。 ご不明な点がございましたら、お問合せ下さい。

方向(E6)データを「ポイント」として取得し、その回転角度により方向を示した場合、Ver.4 では『北上方向0度の反時計まわり』での表示としておりましたが、Ver.6 より DM の作業規程に記載されている注記の文字列角度と同様に、『水平方向0度の反時計まわり』の扱いと致しました。

DM 図式は、Pcm.sym ファイルに登録されており、DM ツールインストール時に自動的にセットされる様になっております。

Ver.6以降では、方向データとして扱う必要のある DM 図式(拡張パターン)の方向を変更いたしました。

Ver.4 での方向の扱いで、データ作成を行う場合は PC-Mapping Ver.4 のインストールフォルダーにある Pcm.sym ファイルを PC-Mapping Ver.6 のインストールフォルダーにコピーして下さい(現在 PC-Mapping Ver.6 のインストールフォルダーにある、Pcm.sym ファイルはファイル名を変更して残しておく事をお勧めし ます)。

≪例≫

信号灯(2246)が方向(E6)で入力されている DM データをインポートした場合



□方向データをポイントに保存(OFF)



■方向データをポイントに保存(ON)

5-4. 小物体記号の表示について

「公共測量作業規程」の『小物体記号の表示の原則』に従い、シンボルの外周に 0.2mm の白部を置いて表示できるようにしました。

1. 「ポイント」の内部属性「文字マスク」フィールドの「従描画」チェックを ON にします。



2. 次に、マスクをかけたい図式の「文字マスク」属性を ON にします。

照会			25
ヤ 広域ベクター、背景ブ	コジェクトを含むすべての表示レイヤ	7	RU 78 8 P 2 0
2000		-	 非表示要素捕捉なし
崔標 -47.352.35(m) -5.			
フィールド名称	フィールドデータ		属性コピー(<u>A</u>)…
グループID	0		□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
名称			座標リスト(L) >>
フォントフェイス	フォント型??		データベース呼出(D)
回転角度	0.0	_	リレーション起動(R)
文字サイズ	文字サイズ型??	Ξ	レイアウトビュー(V)
文字配置	「二」左上		
文字マスク	Mask On		
線号	0	-	前景に非選択に
	語会 や 広域ベクター、皆果フロ 2000 ご種 -47,352.35(m) -5. フィールド名称 グループID 名称 フォントフェイス 回転角度 文字サイズ 文字配置 文字マスク 線号	開会 や 広域ベクター、背景フロジェクトを含むすべての表示レイネ 2000 連種 -47,352.35(m) -5,308.99(m) 0.000(m) フィールド名称 フィールドデータ グループID 0 名称 フィールドズータ 回転角度 0.0 文字サイズ 文字サイズ型?? 文字配置 1 左上 文字マスク Mask On 線号 0	照会 や 広域ペクター、皆県フロジェクトを含むすべての表示レイヤー ↓ 2000

3. 下図のように表示されます。



5-5. 属性(E8)データの扱いについて

従来、属性(E8)データにつきましては、「公共測量作業規程」で明確に仕様が決められておりませんが、この DM キットにおきましては属性(E8)データが存在する場合以下の扱いとなっています。

D1						
	フィールド名	フィ	ールド型			
1	レコードタイプ	整数型				
2	分類コード	整数型				
3	要素識別番号	整数型		スクロール		
4	レベル	整数型				
5	図形区分	整数型	データベー	- スの設定		
6	精度区分	整数型	データイ	ペーフタ		
- 7 -	注記区分	整数型	01	· //1		
8	転位区分	整数型				🛒 🗶 キャンセ
9	間断区分	整数型		フィールド名	フィールド型	
10	X	整数型	8	転位区分	整数型	<u> </u>
11	Y	整数型	9	間断区分	整数型	
12	属性(Z)	整数型	10	X	整数型	スクロール
も示っ	・ ォント(F) MS Pゴジック 9 Point		- 11	Υ	整数型	
			12	属性(Z)	整数型	pac
			- 13	座標X	実数型	
			14	座標Y	実数型	isto(A
			15	属性区分	整数型	
			16	属性書式	文字型	
			17	取得年月	日付時刻型	🖌 更新(U
			18	グルーブID	整数型	
			19	属性レコード	文字型	▼ 初期値0.

属性レコード(E8)が存在する場合、属性データベースを作成

フィールドは、DM データの「要素レコード」の内容に対応しております。 最終フィールドに『属性レコード』として属性データが取込まれます。 ベクターデータとは、『要素識別番号』でリンクさせることができます。 ※『属性』フィールドの詳細設定等は、オプションでの個別対応となります。

5-6. 世界測地系でのエクスポート

『日本測地系』で作られたデータ(「新規作成」または「インポート」)を『世界座標系』でエクスポートする場合、座 標変換後([プロジェクト]-[変換]-[測地成果2000対応変換])に図郭を切り直す仕様であれば問題ありませんが、 図郭を切り直さない場合は、[プロジェクトエキスパート]-[メモ]パネル(⇒「6-2.[プロジェクトエキスパート]-[メモ]パ ネル」)の図郭座標を確認・修正し、エクスポートのオプション

✓ プロジェクトメモより図郭座標を設定する

をチェックした状態でエクスポートして下さい。

※世界測地系で「新規作成」を行なった場合、あるいは、世界測地系のデータを「インポート」した場合は特に注意は必要ありません。

5-7. 拡張 DM 対応に伴う一部方向データの扱い変更について

従来の DM では、1/1000、1/500 取得基準において、下記につきましては、柱の位置をポイントデータ、架線の 方向をアークデータとして取得してきました。

分類コード	名称
4119	有線柱
4132	電話柱
4142	電力柱

拡張 DM では、方向データ(E6)は

ある点に対する方向を示す場合(例えば電柱)に用いるもので、2つの座標値を組として方向を示す。 最初の座標値がその中心を、次の座標値がその方向を表し、1レコードには、三次元座標レコードでは2組の方 向データを持つ。

(詳しくは、拡張ディジタルマッピングデータファイル仕様(平成16年3月)9/11ページをご覧ください)

扱いとなりました。

そのため、PC-MAPPIMGでは、上記に限り、柱の位置はポイントデータとして持たず、アークで架線方向を、それらを繋ぐノード(結合点)で、表す事にしました。

●新規作成の場合

「レコードタイプ=6」で、架線のアークを取得。

柱の位置は、ノードにシンボル表示用のフィールドを準備して表示させます。



209 id7088	-	
Image: Constraint of the second secon	■ 再性照会 対象レイヤ 前景レイヤ ■】 4000 ノード 内部番号 3	● ご 団 ◇ 少 「 ● 非表示要素捕捉なし マ ○
<	<u>フィールド名称 フィールド名称 1</u> SYMBOL 414200	■ 属性コピー(A) … ■ 情報コピー(Q) データベース呼出(Q) リレーション起動(R) レイアウトビュー(V)

ノードの「SYMBOL」フィールドに『41200』を入力し、「電柱」のシンボルで描画します。

❷エクスポートの場合

従来と同じ方法	法です。						
DMデータ エクスポート							
図郭(図葉)ファイル							
E:¥請負作業¥DM作	作成キット¥作業¥エクスポート¥08OD712.dm	🖌 ОК					
☑ 拡張DM対応	✓ Ver2対応 □ レコード数は図郭レコードを含む全レコード数						
文字コード(<u>A</u>)	● ANK (JIS8) ○ EBCDIC						
漢字コード(区)	○ JIS ○ EUC ● Shift JIS	存他の単位					
レコード(B)	○ CR LFなし ○ LFのみ ● CR LFあり	日期					
座標	● XY(2D) ○ XYZ(3D) ☑ 点(E5)は実データなし						
□ プロジェクトメモより	り図郭座標を設定する 🗌 "ZUKAKU"レイヤーのアークを(傾斜) 図郭とする	3					
測地成果識別コード	○日本測地系 ○世界測地系 ●日本測地系から世界測地系	へ変換					
○世界測地系から地	補正回数 パラメータロード 地殻変動 パラメータによる 補正 (1) (2) (3) (4)	(5)					
図専び部別コード							
変換手法識別コード	● 図郭は切り直されている ○ され以外						
	○全座標データを座標変換(3) ○1-3以外の変換(9) ●それ以外	-(0)					
同時にエクスポートする	るレイヤー(L) すべて選択(A) す	べて非選択(<u>U</u>)					
1100	🔑 6 ⅓ 12 🗟 0 📅 0 😺 0/0/0/0 🚟 0 x 0 🜌						
- IIII 2100	👥 727 況 764 启 0 🔛 0 😺 0/0/0/0 📇 0× 0 🜌						
2200	HY 32 1/2 54 🔚 0 💱 0 🍪 0/0/0/0 🚟 0 x 0 🜌						
- L 3000	H♥ 178 1% 186 🔚 0 🚱 0 🐶 0/0/0/0 🕋 0 x 0 🖄						
4200	🕅 36 94 58 🖂 o 🐯 4 ÅÅ 0/0/0/0 🚟 0 x 0 🔤						
5100	■ 89 1/4 130 目 0 100 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0						
5200	P 16 1/2 32 □ 0 1 ²³ 2 3 0/0/0/0 2 0 x 0 2	igi					
6200	🕂 2 🎋 3 📄 0 🔛 2 🍪 0/0/0/0 🔤 0 x 0 🌌	i i i					
- @ 6300	👭 424 🕅 840 🔚 0 🔛 1284 😾 0/0/0/0 🔤 0 x 0 🗖						
<		>					

3インポートの場合

DMデータ インポート	×						
読み込むファイル(E)							
	√ ОК						
	↑ +ャンセル						
	0 17</td						
	🖺 追加(A)						
	M 解除(<u>R</u>)						
	すべて解除						
すべ(解除) 条(図葉識別番号を使用していない場合) 09系 (ビント>>) 2 漢字コードはSJIS レイヤー分け 分類コード上位2桁でレイヤー分けする 2 属性Zはmm単位 制御ワアイル 回 別を区分99を無視 う内ボークをポイントに保存 一有線柱、電話柱、電力柱もポイントに変換 問時に広分を描画キ にを映会せる 注記は別レイヤーに生成 「面)データをポリゴン化 一描画キーを実データとし、分類コード、図形区分を計算フィールドにする(描画速度は向上します) 文字列のマスクに「マスク」フィールドではなく、「フォントの縁取り」で対応する プロジェクトの保存先ファイル ((
□ 直接レイヤーデータをファイルに保存する、ファイル名はDMデータ名+レイヤーコード							
保存先フォルダー							
□ プロジェクトの広域ベクターに登録する 新規にプロジェクトを生成する	~						
지미까타 [1] SLOT-1	~						
□ 統合広域イメージを生成する 解像度 ピクセル / m 2							
保存先							

「方向データをポイントに保存」チェックボックスを On にしてインポートします。



[レイヤエキスパート]・[ノード]パネルには、自動で下記の設定が行われます。

🖦 レイヤエキスパート	< (4000)	
ಕ್ರಾ ಕ್ರಾ ಸ್ವಾಗಿ	表示設定① - 前景(編集可) · 【 背景へコピー 内部ID	
8- 1-1	□ 座標 □ 座標(Z) ☑ 拡張パターン □ 横並びで表示(☑ ユニオン代表表示 □ 画面回転に連動しない ☑ サイズ固定(F) □ 選択強調表示	(<u>H</u>) ぶし
 ポリゴン ポイント 	表示フォント(E) MS UI Gothic 9 Point <u>A</u> 参照(R) □「拡張グラフィックス」を適応 内部属性 フィールド名 フィールド型 表示 主猫画 従猫画 ^{スクロール}	きしない
لاب کی اللہ میں اللہ اللہ میں اللہ میں الل	1 SYMBOL 整数型 / なし	~
シリープロパティ 本	udāt ₩5. Baltī +5.	(<u>A</u>) ≹(<u>D</u>)
	<u>业</u> 更新	<u>(U)</u>
	メモ・キイリン 初期値	λト>> Φ
		p(<u>P</u>)
< >>	参照する描画パラメーターセット(P) DM500	*
	 OK X キャンセル (9) 	ヘルプ

[プロジェクトエキスパート]・[表示モード]パネルの「ノード」-「結合点」のチェックを入れて、柱の位置を表示させます。

🏰 プロジェクトエキスパート(D)Msample)	×
└ レイヤー	登録された表示モード 一 現在の標準設定	前景レイヤー(E) アーク 図線形 【補間点 】方向 【属性 ノード 【端点 図話合点 】 【属性
*▲》 環境-1 *▲》 環境-2		パシュン 2 ノイル □属性 ポイント 2 点 2 属性 その他 2 図郭 □ イメージ □ メッシュ □ 縮尺表示制御
 AETアーダハース 広域イメージ 広域ペクター です。背景ピクチャー 使高メッシュ 		背景レイヤー(B) アーク 2線形 補間点 方向 属性 ノード 端点 結合点 属性 ポリゴン フィル 属性 ポイント ビ 属性 アの他 図 回転 イメージ ションション
 ご TIN マイックシェイプ エリアマップ 背景プロジェクト 	追加(A) ほ存(S) 「 解除(B) 内部データ(D) すべて内部データ	その他(E) 広域ペクター(L) 広域ペクター(L) 古家域へクター(L) 2 クイックシェイプ(Q) E-シェイプ(E) スケールパー(タイプ2) 背景色に固定(C) ユニオン代表表示 レイヤー毎の描画 正規化基準点非表示(N) 文字列部分表示の抑制
 ■ スクリプト ● マウスイベント ■ キーリスト 	標準から」と− 標準へ」と− 描画順位カスタマイズ(Q) L レイヤー表示モード(M) >>	□ 属性表示の再配置 □ 異なる座標系レイヤーの合わせこみ表示 □ グリッド(G) □ 十字 ◎ 座標 ガリッドの間隔 ◎ 自動 0.0 (m)
 ●リープロパティ ●メモ ■「ヨリビジョン管理 	レイヤー表示モードメニュー 〇 スケールパー(タイプ3) 左上 ~	 □ 一括描画モード(D) 強調ブリンク □ 前景レイヤー □ 背景レイヤー □ 青屋な設定 高速 低速
		✓ OK



※印刷時には、「結合点」、「点位置」を非表示とするため、レイヤーエキスパートの各パネルのチェックを外して下さい。

6. PC-MAPPING の設定と DM フォーマットとの対応

「作業規程の準則(付録7 公共測量標準図式) 令和5年3月31日更新」に準拠しています。

6-1. インデックスファイル作成時ダイアログ

DMインデックスファイル作成			×
計画機関名	□間断フラグ	西暦年号	 ✓ OK へルプ(出)
□「系」 を指定する	3 9		
			追加(A) 解除(<u>R</u>)
文字コード(<u>A</u>)	ANK (JIS8)		
漢字コード(区)		\bigcirc EUC	Shift JIS
レコード(B)	○ CR LFなし	◯ LFのみ	◉ CF LFあり
インデックスファイルの保存ダ	ē		

1	計画機関名	数値地形図データの作成・更新を計画した機関名(漢字 15 文字以内)
2	転位フラグ	当該データファイルで、転位区分を設定しているか否かを示すフラグ
		● 0=転位処理を設定していない
		● 1=転位処理を設定している
3	間断フラグ	当該データファイルで、間断区分を設定しているか否かを示すフラグ
		● 0=間断処理を設定していない
		 ● 1=間断処理を設定している
4	西暦年号	作業規程が施行された西暦年
5	作業規程名	使用した作業規程名(漢字15文字以内)
6	文字コード	作成するインデックスファイルの文字コードを選択
		• ANK(JIS8)
		• EBCDIC
\bigcirc	漢字コード	作成するインデックスファイルの漢字コードを選択
		• JIS
		• EUC
		• Shift JIS
8	レコード	作成するインデックスファイルのレコードタイプを選択
		● CRLFなし
		● LFのみ
		● CR LF あり
9	インデックスファイルの保存先	作成するインデックスファイルの保存先を指定

【DM データフォーマットとの対応】

数値地形図データファイル仕様

- レコード名:(1)インデックスレコード
- ▶ ファイル仕様:(a)

★インデックスレコード(a)

	フォーマット	内容		対応するダイアログの内容
1	A2	レコードタイプ		
2	I2	座標系		ファイル名(図郭割り番号)から自動算出されるが、 「系を指定する」で入力があればその系番号がセッ トされます。
3	A30	計画機関名		1
4	I3	図郭数		「合まれて回郎ファイル」から自動管山
5	I2	図郭識別番号レコー	ド数	「日よれる因乳ノナイル」から日朝昇山
6	I4	使用分類コード数		
7	I1	転位処理フラグ		2
8	I1	間断処理フラグ		3
9	I4	は田」を佐業坦知	西暦年号	4
10	A30	使用した作未成性	作業規程名	5
11	I1	バージョン		データファイル仕様のバージョンで、本仕様では 「1」(旧 DM は「0」)
12	I1	空き領域区分		
11	3X	空き領域		

★インデックスレコード(b)

	フォーマット	内容	対応するダイアログの内容
1	A8	図郭識別番号(1)	
2	A8	図郭識別番号(2)	
3	A8	図郭識別番号(3)	
4	A8	図郭識別番号(4)	地域内に合されて公回前委日(業粉ウ 回前禁則
5	A8	図郭識別番号(5)	地域内に召まれる主凶豹番方(央剱子、凶豹敵)
6	A8	図郭識別番号(6)	番方レユート数万禄9返し)→「召まれる凶郭ノ) 小から白動管虫
7	A8	図郭識別番号(7)	//」から日 勤 昇 山
8	A8	図郭識別番号(8)	
9	A8	図郭識別番号(9)	
10	A8	図郭識別番号(10)	
11	4X	空き領域	

6-2. [プロジェクトエキスパート]-[メモ]パネル

🍇 プロジェクトエキスパート	(エクスポートプロジェクト)			×
L-1ヤ-	このプロジェクトのメモ			
■ 表示モード	CODE=00NG211	-		新規(<u>N</u>)
🌌 描画パラメーター		=	Ê	読込(<u>R</u>)
▲ 環境-1	I I I LE-IT 回奉区		¥	保存(S)
公↓* 環境-2	REPEAT=0			
11 属性データベース	UNIT=0			
	ZUKAKU_CUDE=U HENKAN_CODE=0			
(四) 広域ベクター	SOKUCHISEIKA CODE=1			
	H0SEI=0			
🛆 標高メッシュ・TIN	HUSEI1=0			
▲ クイックシェイプ	HOSEI3=0			
ALE エリアマップ	HOSEI4=0			
1000 背景プロジェクト	HOSEI5=0			
■ スクリプト	QP1=-19750.0000 18400.0000			
一門 マウスイベント	QP2=-19600.0000 18600.0000			
	QP3=-19750.0000 18600.0000 NEAP-0000104 0000114 0000010 0000014 0000014 0000010 0000004 0000000			
M ツリープロパティ	AKT a=			
	AKI_b=			
10 パロ	AKI_c=			
□□ ノビノコノ 日々	AKI_I=U Niaver=0			
	Ver=1			
▲ 2Dポイントクラウド	HEAD11=1108,1108,3,1,SummitEvolution ,	-		
	<	•		
	OK 0K キャンセル			(تارب ()

1	CODE=<図郭識別番号>	省略された場合は、プロジェクトのタイトル名が使われる
2	NAME=<図郭名称>	
3	TITLE=<タイトル名>	
4	LEVEL=<地図情報レベル>	省略された場合は、前景レイヤーの縮尺分母が使われ
		5
5	UNIT=<座標系の単位>	インポート時、エクスポート時は参照されない(縮尺より自
		動決定)
6	REPEAT=<修正回数>	エクスポート時は、⑧~⑩の繰り返し数(*1)
		新規作成時は修正回数 0(ゼロ)
\bigcirc	NEAR=<隣接図郭識別番号(1)>,<隣接図郭識別番	DM の図葉識別番号が使用されていれば、省略された
	号(2)>,<隣接図郭識別番号(3)>,	場合は自動算出される
8	HEAD11=<作成年月>,<現地調査年月>,<撮影コー	省略された場合は空文
	ス数>,<レコード数>,<入力機器名>,<公共測量承認	● 作成年月=位置データを作成した年月、西暦の
	番号>,<測地成果識別コード>,<図郭識別コード>,<	下2桁及び月で表現(未入力は「0000」)
	変換手法識別コード>	 ● 現地調査年月日=現地調査を行った年月、西
		暦の下2桁及び月で表現(未入力は「0000」)
		● 撮影コース数=当該図郭に関係する写真のコー
		ス数。
		● レコード数=撮影コース(図郭レコード(f))の数。
		レコード数に記載項目がない場合は「0」。
		● 入力機器名=位置データを入力した機器名
		● 公共測量承認番号=承認番号
		● 測地成果識別コード=⑪
		● 図郭識別コード=①
		● 変換手法識別コード=①
9	HEAD12=<作業機関名>	省略された場合は空文
10	HEAD13=<コース番号>,<年月>,<縮尺>,<枚数>,<	省略された場合は空文
	始点>,<終点>,	
	(*1) 繰り返しある場合は、	
	⑧ HEAD21=<作成年月>,<現地調査年月>,<撮影コー	-ス数>,<レコード数>,<入力機器名>,<公共測量承認番号>
	⑧ HEAD21=<作成年月>,<現地調査年月>,<撮影コー	-ス数>,<レコード数>,<入力機器名>,<公共測量承認番号>

⑨ HEAD22=<作業機関名>

⑩ HEAD23=<コース番号>,<年月>,<縮尺>,<枚数>,<始点>,<終点>,

	⑧ HEAD31=<作成年月>,<現地調査年月>,<撮影コー	-ス数>,<レコード数>,<入力機器名>,<公共測量承認番号>			
	⑨ HEAD32=<作業機関名>				
	⑩ HEAD33=<コース番号>,<年月>,<縮尺>,<枚数>,<始点>,<終点>,				
	と続ける。				
	データを「更新」した場合、履歴として HEAD 情報を追	加していきます。			
	よって、修正回数は HEAD11~の繰り返し数となります				
	本キットでは、エクスポート時に HEAD 情報の繰り返し	数を認識していますので、REPEAT=の変更の必要はあり			
	ません。(変更しても反映しません。)				
(11)	QP0~QP3=<図郭座標>	前景レイヤーの図郭座標を使用しない場合、左下 X 座			
		標、左下 Y 座標、右上 X 座標、右上 Y 座標を入力			
(12)	ZUKAKU_CODE=<図郭識別コード>	日本測地系から世界測地系へ変換された図郭の状態を			
		示すコード			
		● 1=図郭が切り直された場合			
		● 0=それ以外			
(13)	HENKAN_CODE=<変換手法識別コード>	座標変換の方法を示すコード			
		● 1=図郭代表点を座標変換			
		● 2=図郭四隅を座標変換			
		● 3=全座標データを座標変換			
		● 9=上記以外の座標変換			
		● 0=それ以外			
14	SOKUCHISEIKA_CODE=<測地成果識別コード>	作成した成果の測地系コードを入力			
		● 0=日本測地系で作成			
		● 1=世界測地系で作成			
		● 2=日本測地系から世界測地系へ変換			
(15)	Ver=<バージョン>	データファイル仕様のバージョンで、本仕様では「2」			

【DM データフォーマットとの対応】

数値地形図データファイル仕様

- ▶ レコード名:(2)図郭レコード
- ▶ ファイル仕様:(a)~(f)

★図郭レコード(a)

	フォーマット	内容	対応するダイアログの内容
1	A2	レコードタイプ	
2	A8	図郭識別番号	1
3	A20	図郭名称	2
4	I5	地図情報レベル	4
5	A30	タイトル名	3
6	I2	修正回数	6
7	I1	バージョン	(15)
8	I1	空き領域区分	
9	15X	空き領域	

★図郭レコード(b)

	フォーマット	内容	対応するダイアログの内容
1	I7	図郭座標(1)左下図郭座標 X(m)	
2	I7	図郭座標(1)左下図郭座標 Y(m)	
3	I7	図郭座標(1)右上図郭座標 X(m)	
4	I7	図郭座標(1)右上図郭座標 Y(m)	
5	I3	空き領域	
6	I6	要素数	➡自動算出
7	17	レコード数	当該図郭ファイルの図郭レコードを除く全レコード 数 ➡自動算出
8	13	座標値の単位	 ⑤ 座標データの単位を記述する。 地図情報レベル 500・1000→「1」(mm 単 位) 地図情報レベル 2500・5000→「10」(cm 単 位) 地図情報レベル 10000→「999」(m 単位) 自動算出
9	I7	図郭座標(2)左下図郭座標 X(m)	
10	I7	図郭座標(2)左下図郭座標 Y(m)	
11	I7	図郭座標(2)右上図郭座標 X(m)	
12	I7	図郭座標(2)右上図郭座標 Y(m)	
13	6X	空き領域	
14	13	レコード数反復回数	 レコード数が7桁を超える場合に用いる。 1~9,999,999→「1」 10,000,000~19,999,999→「2」 20,000,000~29,999,999→「3」 : ⇒自動算出

★図郭レコード(c)

	フォーマット	内容	対応するダイアログの内容
1	A8	隣接図郭識別番号(1)	
2	A8	隣接図郭識別番号(2)	
3	A8	隣接図郭識別番号(3)	
4	A8	隣接図郭識別番号(4)	
5	A8	隣接図郭識別番号(5)	
6	A8	隣接図郭識別番号(6)	
7	A8	隣接図郭識別番号(7)	
8	A8	隣接図郭識別番号(8)	
9	20X	空き領域	

★図郭レコード(d)

	フォーマット	内容	対応するダイアログの内容
1	A4	作成年月	
2	A4	現地調査年月	
3	I1	撮影コース数	
4	I1	レコード数	
5	A30	入力機器名	
6	A30	公共測量承認番号	
7	I1	測地成果識別コード	<u>(14)</u>
8	I1	図郭識別コード	
9	I1	変換手法識別コード	13
10	11X	空き領域	

★図郭レコード(e)

	フォーマット	内容	対応するダイアログの内容
1	A40	作業機関名	9
2	I4	図郭座標の端数 左下図郭座標 X	
3	I4	図郭座標の端数 左下図郭座標 Y	
4	I4	図郭座標の端数 右上図郭座標 X	
5	I4	図郭座標の端数 右上図郭座標 Y	
6	I4	図郭座標の端数 左上図郭座標 X	
7	I4	図郭座標の端数 左上図郭座標 Y	
8	I4	図郭座標の端数 右下図郭座標 X	
9	I4	図郭座標の端数 右下図郭座標 Y	
10	12X	空き領域	

★図郭レコード(f)

	フォーマット	内容	対応するダイアログの内容
1	A4	撮影 コース番号	
2	A4	撮影 年月	
3	I5	写真 縮尺	
4	I1	写真 枚数	
5	I4	写真番号 始点	
6	I4	写真番号 終点	
7	A4	撮影 コース番号	
8	A4	撮影 年月	
9	I5	写真 縮尺	
10	I1	写真 枚数	

11	I4	写真番号 始点
12	I4	写真番号 終点
13	A4	撮影 コース番号
14	A4	撮影 年月
15	I5	写真 縮尺
16	I1	写真 枚数
17	I4	写真番号 始点
18	I4	写真番号 終点
19	18X	空き領域

6-3. [レイヤーエキスパート]-[メモ]パネル

🌺 レイヤーエキスパート (1100))		×
ようこそ	ZCODE=080D711 LAYER=11 CODE=1100		1
<i>₽</i> -7	CODE1=0 CODE2=0		
→♀ ノード	DATE=1503 DATE1=0		
プ ポリゴン	DATEO=0 KUBUN=3 ZUKAKU_CODE=0		
ポイント	HENKAN_CODE=0 SOKUCHISEIKA_CODE=1 HOSEI=0		
בלעיא 🌆	HOSE I 1=0 HOSE I 2=0		
تر الله الله	HOSE 13=0 HOSE 14=0 HOSE 15=0		
≠-IJZŀ	QP0=-142500.0000 -36000.0000 QP1=-141000.0000 -36000.0000 QP2141000.0000 -24000.0000		
ア ツリープロパティ	QP3=-142500.0000 -34000.0000		
特殊なレイヤー	ZCODE=080D712 LAYER=11		
4 2 × t	CODE=1100 CODE1=0 CODE2=0 I FVFI =1		
	4		•
	□ 新規(<u>N</u>)	➢ 読込(<u>R</u>)	↓ 保存(<u>S</u>)
לושיב 📔 לו	ルエキスパート >>	✓ OK	

1	CODE=<レイヤー>	レイヤーヘッダー(含、グループヘッダー)の分類コード(4桁)
		省略された場合はレイヤーのタイトル名
2	CODE1=<地域分類>	地理情報の属する位置的特性による分類で、必要に応じて利用者が任意に
		定義するコード
		省略された場合は空文
3	CODE2=<情報分類>	地図情報の利用目的による分類で、必要に応じて利用者が任意に定義する
		コード
		省略された場合は空文
4	LEVEL=<階層レベル>	通常"1"
		※インポート時は参照されない
		エクスポート時
		● レイヤーヘッダレコードの場合=1
		● 要素グループヘッダレコードの場合=2
		● 要素レコード(グループ内)=3
		● 要素レコード(その他)=2
5	DATE=<取得年月>	取得年月=当該グループに属する取得要素の最新年月、西暦の下2桁及び
		月で表現(未入力は「0000」)
		省略された場合は空文
		≪例≫
		$1985/1/1 \rightarrow 8501$
		2000/4/1→0004
6	DATE1=<最終取得年月>	取得年月=追加形式でファイルを更新する際に用い、当該グループに属する
		取得要素の最新年月、西暦の下2桁及び月で表現(未入力は「0000」)
		省略された場合は空文
\bigcirc	DATE0=<消去年月>	消去年月=追加形式でファイルを更新する際に用い、当該グループに属する
		消去要素の最新年月、西暦の下2桁及び月で表現(未入力は「0000」)
		省略された場合は空文
8	KUBUN=<数値化区分>	当該グループが主にどのような手法によって数値化されたかを示す区分。
		省略された場合は "3"

【DM データフォーマットとの対応】

数値地形図データファイル仕様

▶ レコード名:(3)グループヘッダレコード(レイヤヘッダレコード及び要素グループヘッダレコード)

	フォーマット	内容			レイヤーのメモ
1	A2	レコードタイプ			
2	I4		分類	レイヤ	
3		地図分類	コード	項目	
4	I2	コード	地域分	類	2
5	I4		情報分	類	3
6	I4	要素識別番	号		
7	I2	階層レベル			4
8	I5		総	数	
9	I5		グ	ループ	
10	I5		面		
11	I5		線		
12	I5	要素数			
13	I5			弧	
14	I5		点	•	
15	I5		方	向	
16	I5		注	記	
17	I5		属	性	
18	I1		グ	リッド	
19	A4	取得年月			5
20	A4	更新の取得年月			6
21	A4	消去年月			$\overline{\mathbb{O}}$
22	I2	数値化区分			8
23	X	空き領域			

6-4. [レイヤーエキスパート]ー[アーク]パネル

🏰 レイヤーエキスパート (1100)				×
र्द्ध ४७८२	表示設	定(1) 前景(編集可) 、	 	□ 内部ID	
	Sec. 1	線形 🛛 補間点 🚽 方向	□代表点 □パ	ステキスト 🗌 代表点(に表示
$\neq \sqrt{r^{-9}}$		座標 □ 座標(Z) □ 長さ	☑ 拡張パターン	□横並びで	で表示(出)
الم		コニオン代表表示 🗌 画面回転	に連動しない 🗌 サイン	ズ固定(F) 🗌 選択強調	調表示なし
	表示	フォント(F) Yu Gothic UI 10	Point A 参昭(R)		ハルフレを演奏したい
\mathcal{P} ポリゴン					1ックス」を迫心しない
/		^陥 尺による衣 小 利 御			
1 ポイント	Ť	福尺が 1 / 0 以上	1/ 0 以	下で表示	
ריצייא 🕅	内部属	1111			
	1.2.00	フィールド名	フィールド型 表示	主描画従描画 🖉 🛓	スクロール ロック(L)
AX-9	1	レコードタイプ	整数型		
	2	分類コード+図形区分	整数型	V	14U °
キーリスト	3	分類コード	整数型	Ċ=	🔁 追加(<u>A</u>)
	4	地域分類	整数型		🐪 削除(D)
ツリープロパティ	5	情報分類	整数型		一 五彩(1)
	6	要素識別番号	整数型		₩ 更新(<u>U</u>)
特殊なレイヤー	7	レベル	整数型		リンクフィールドの
	8	図形区分	整数型	Ċ.	
4 XE	9	精度区分	整数型		メモ・キーリスト >>
	10	転位区分	整数型		初期値(1)
	11	間断区分	整数型	Ċ.	+ = #il/#i.o
	12	取得年月	日付時刻型		表示制御(<u>P</u>)
	参照す	る描画パラメーターセット(P) DN	12500		~
プロジェク	トエキスノ	۱-۱->>	/ ОК 1 ++	アンセル	

(1)	レコードタイプ	データタイプによって区分される。
		● 1=面
		● 2=線
		● 3=円
		● 4=円弧
		● 6=方向
		に対応(PC-MAPPING では折れ線でも、円、円弧に変換される)
2	分類コード+図形区分	描画用のコード。分類コード(4桁)+図形区分(2桁)の値を入力。
		エクスポートには関係しない。
3	分類コード	「分類コード+図形区分」フィールドから分類コードのみ抽出。
4	地域分類	
5	情報分類	
6	要素識別番号	エクスポート時は参照されない(機械的に決定)
\bigcirc	レベル	エクスポート時は参照されない(機械的に決定)
8	図形区分	「分類コード+図形区分」フィールドから図形区分のみ抽出。
9	精度区分	要素ごとのデータの精度
10	転位区分	「転位処理フラグ」(*1)が1の時、図面出力において適用される区分。
		● 0=転位されない
		● n=データの方向に対して右側に転位する
		● -n=データの方向に対して左側に転位する
		取得分類コードに応じて優先順位の高いものから1,2,nと記述。
		(*1)
		➡「6-1.インデックスファイル作成時ダイアログ」
11	間断区分	「間断処理フラグ」(*1)が1の時、図面出力において適用される区分。
		取得分類コードに応じて優先順位の高いものから1,2,nと記述。
		(*1)
		➡「6-1.インデックスファイル作成時ダイアログ」
(12)	取得年月	当該要素が最初に取得された年月、西暦の下2桁及び月で表現(未入力は
		「0000」)
(13)	最終取得年月	追加形式でファイルを更新する際に用い、当該要素が修正された年月、西

		暦の下2桁及び月で表現(未入力は「0000」)
14	消去年月	追加形式でファイルを更新する際に用い、当該要素が消去された年月、西
		暦の下2桁及び月で表現(未入力は「0000」)
15	属性(Z)	
16	グループ ID	同一番号で1つのグループとして処理
		0 はグループ処理しない

【DM データフォーマットとの対応】

数値地形図データファイル仕様

▶ レコード名:(4)要素レコード

	フォーマット	内容			内部属性	
1	A2	レコードタイン	7°		1)	
2	I4		分類	レイヤー	0	
3		地図分類	コード	項目	0	
4	I2	コード	地域分类	頁	4	
5	I4		情報分類	頁	5	
6	I4	要素識別番	号		6	
7	I2	階層レベル			\bigcirc	
8	I2	図形区分			8	
9	I1	実データ区分	с		オプション、条件等により代入される	
10	I2	精度区分			9	
11	I1	注記区分			常に0	
12	I2	転位区分				
13	I1	間断区分				
14	I4	データ数			自動算出	
15	I4	レコード数			自動算出	
16	17	代表点の X			常に0	
17	17	座標値 Y			常に0	
18	17 or 7X	属性数值			(15)	
19	I2	属性区分			常に0	
20	A7	属性データの	D書式		常に空白	
21	A4	取得年月				
22	A4	更新の取得な	 手月		(13)	
23	A4	消去年月			(4)	
24	6X	空き領域				
25	I1	要素識別番号反復回数		数	 要素識別番号が4桁を超える場合に用いる。 1~9,999→「1」 10,000~19,999→「2」 20,000~29,999→「3」 : ⇒自動算出 	

6-5. [レイヤーエキスパート]ー[ポイント]パネル

🏰 レイヤーエキスパート (1100))				×
<i>ようこそ</i>	表示設定	(1) 前景(編集可)	∨ < 背景へコピー	内部ID	
	🗹 点(立置 🛛 シンボル	🗌 テキストオフセット	🗌 ダブり点ま	表示抑制
≁ ∖, _,	□座	票 🗌 座標(Z)	☑ 拡張パターン	 横並びで 	表示(出)
ДО 7-К	בב 🗹	オン代表表示 🗌 画面回望	転に連動しない 🗌 サイズ固定	定(E) 🗌 選択強調	周表示なし
1	表示フォ	ォント(E) Yu Gothic UI 1	0 Point / 参照(R)	□「拡張グラフィ	ックス」を適応しない
	□縮ノ	マによる表示制御			
ポイント	縮尺	が 1/ 0 以上	1/ 0 以下で読	長示	
בפעע א	内部属性		그, 비난파 (부국) 수선	******	スクロール
	1	ノイニルト石 -コードタイプ			Dyb(L)
1x->	2 2		…」────────────────────────────────────	/	なし ~
1 =-UZF	3 5	う類コード	整数型	Ċ=	[] 追加(<u>A</u>)
	4 차	也域分類	整数型		□ 削除(D)
ツリープロパティ	5 竹	青報分類	整数型		·
	6 署	原素識別番号	整数型		
特殊なレイヤー	7		整数型		リンクフィールドの
	8 2		整新型	C	
4 − ×τ	9 桁	夏区分 Hand A	宝女X 空 軟 称 刑		メモ・キーリスト >>
	10 /2	LiGLビカ D)得在日	日付時刻型		初期値(<u>I</u>)
	12 🖩	NG4-7 影終取得年月	日付時刻型		表示制御(P)
	参照する指	描画パラメーターセット(P) D	M2500		~
🖻 ว่าวยังร่ว	トエキスパー	-ト >>	 OK へ キャンセ 	2.16	

1	レコードタイプ	データタイプによって区分される。
		● 5=点
		● 7=注記(コード7で名称が空文でないものが注記7となる、他は点5と
		して処理される)
2	分類コード+図形区分	描画用のコード。分類コード(4桁)+図形区分(2桁)の値を入力。
		エクスポートには関係しない。
3	分類コード	「分類コード+図形区分」フィールドから分類コードのみ抽出。
(4)	地域分類	
5	情報分類	
6	要素識別番号	エクスポート時は参照されない(機械的に決定)
\bigcirc	レベル	エクスポート時は参照されない(機械的に決定)
8	図形区分	「分類コード+図形区分」フィールドから図形区分のみ抽出。
9	精度区分	要素ごとのデータの精度
10	注記区分	漢字か英数字かの区分
		● 1=漢字
		● 2=英数字
11	取得年月	当該要素が最初に取得された年月、西暦の下2桁及び月で表現(未入力は
12	最終取得年月	追加形式でファイルを更新する際に用い、当該要素が修正された年月、西
		暦の下2桁及び月で表現(未入力は「0000」)
(13)	消去年月	追加形式でファイルを更新する際に用い、当該要素が消去された年月、西
		暦の下2桁及び月で表現(未入力は「0000」)
14	属性(Z)	
(15)	グループ ID	同一番号で1つのグループとして処理
		0 はグループ処理しない
16	名称	
17	フォントフェイス	フォントスタイルの@の有無で縦・横を判定する
18	回転角度	
(19)	文字サイズ	エクスポート時、高さとピッチが参照される

20	文字配置	エクスポートには関係しない
21)	文字マスク	エクスポートには関係しない
22	線号	
23	実データ区分	
24	空き領域	

※該当フィールドがない時は、0または空文として処理されます。

※フィールドの参照はフィールド名で行われます。フィールドの挿入、参照されない不要フィールドの削除などを行うことができます。ただし、同一フィールド名のデータを作ることはできません。(正しくエクスポートされません。)

【DM データフォーマットとの対応】

数値地形図データファイル仕様

▶ レコード名:(4)要素レコード

	フォーマット		内容		内部属性
1	A2	レコードタイン	プ		1)
2	I4		分類	レイヤ	0
3		地図分類	コード	項目	
4	I2	コード	地域分类	領	4
5	I4		情報分類	領	5
6	I4	要素識別番	号		6
7	I2	階層レベル			\bigcirc
8	I2	図形区分			8
9	I1	実データ区会	分		23
10	I2	精度区分			9
11	I1	注記区分			10
12	I2	転位区分			常に 0
13	I1	間断区分			常に 0
14	I4	データ数			自動算出
15	I4	レコード数			自動算出
16	I7	代表点の	Х		自動代入
17	I7	座標値	Y		自動代入
18	I7 or 7X	属性数值			(15)
19	I2	属性区分			常に0
20	A7	属性データの	の書式		常に空白
21	A4	取得年月			
22	A4	更新の取得	年月		12
23	A4	消去年月			(3)
24	6X	空き領域			24
25	I1	要素識別番	号反復回	数	要素識別番号が4桁を超える場合に用いる。 ● 1~9,999→「1」 ● 10,000~19,999→「2」 ● 20,000~29,999→「3」 : ⇒自動算出

▶ レコード名:(9)注記レコード

		संग्रह संग	古如三 些
	ノオーマット	内容	内部属性
1	I1	縦横区分	
2	I7	文字列の方向	18
3	I5	字大(0.1mm)	
4	15	字隔(0.1mm)	
5	I2	線号	
6	A64	注記データ	16

7. 更新履歴

2000年1月 属性(E8)データの扱いについて 点(E5)データの扱いについて 点(E5)データの扱いについて・その2 2001年6月 操作説明を Ver.5 対応とした。 マルチファイルインポート機能追加。 2002年10月 インポート時レイヤー分けオプション追加。 エクスポート時、図郭レコードに世界測地系情報を追加。 2002年12月 世界測地系でのエクスポート機能追加。 マルチファイルインポート時レイヤー分けオプション追加。 2004年4月 操作説明を Ver.6 対応 とした。 インポートは、標準機能として[ファイル]・[インポート]・[DM(デジタルマッピング真位置デー タ)メニューを追加。 2004年7月 拡張 DM に対応 「Pen」「Symbol」フィールド廃止。 「分類コード+図形区分」フィールド追加。 2005年1月 「DmExport」コマンドにパラメーターを追加しました。
 2000年4月 点(E5)データの扱いについて 点(E5)データの扱いについて・その2 2001年6月 操作説明を Ver.5 対応とした。 マルチファイルインポート機能追加。 2002年10月 インポート時レイヤー分けオプション追加。 エクスポート時、図郭レコードに世界測地系情報を追加。 2002年12月 世界測地系でのエクスポート機能追加。 マルチファイルインポート時レイヤー分けオプション追加。 2004年4月 操作説明を Ver.6 対応 とした。 インポートは、標準機能として[ファイル]-[インポート]-[DM(デジタルマッピング真位置デー タ)メニューを追加。 2004年7月 拡張 DM に対応 2004年10月 「Pen」「Symbol」フィールド廃止。 「分類コード+図形区分」フィールド追加。 2005年1月 「DmExport]コマンドにパラメーターを追加しました。
点(E5)データの扱いについて・その2 2001年6月 操作説明を Ver.5 対応とした。 マルチファイルインポート機能追加。 2002年10月 インポート時レイヤー分けオプション追加。 エクスポート時、図郭レコードに世界測地系情報を追加。 2002年12月 世界測地系でのエクスポート機能追加。 マルチファイルインポート時レイヤー分けオプション追加。 2004年4月 操作説明を Ver.6 対応とした。 インポートは、標準機能として[ファイル]・[インポート]・[DM(デジタルマッピング真位置デー タ)メニューを追加。 2004年7月 拡張 DM に対応 2005年1月 「DmExport」コマンドにパラメーターを追加しました。
 2001年6月 操作説明を Ver.5 対応とした。 マルチファイルインポート機能追加。 2002年10月 インポート時レイヤー分けオプション追加。 エクスポート時、図郭レコードに世界測地系情報を追加。 2002年12月 世界測地系でのエクスポート機能追加。 マルチファイルインポート時レイヤー分けオプション追加。 2004年4月 操作説明を Ver.6 対応とした。 インポートは、標準機能として[ファイル]・[インポート]・[DM(デジタルマッピング真位置デー タ)メニューを追加。 2004年7月 拡張 DM に対応 2004年10月 「Pen」「Symbol」フィールド廃止。 「分類コード+図形区分」フィールド追加。 2005年1月 「DmExport」コマンドにパラメーターを追加しました。
マルチファイルインポート機能追加。 2002年10月 インポート時レイヤー分けオプション追加。 エクスポート時、図郭レコードに世界測地系情報を追加。 2002年12月 世界測地系でのエクスポート機能追加。 マルチファイルインポート時レイヤー分けオプション追加。 2004年4月 操作説明を Ver.6 対応とした。 インポートは、標準機能として[ファイル]・[インポート]・[DM(デジタルマッピング真位置データ)メニューを追加。 2004年7月 拡張 DM に対応 2004年10月 「Pen」「Symbol」フィールド廃止。 「分類コード+図形区分」フィールド追加。 2005年1月 「DmExport」コマンドにパラメーターを追加しました。
 2002年10月 インポート時レイヤー分けオプション追加。 エクスポート時、図郭レコードに世界測地系情報を追加。 2002年12月 世界測地系でのエクスポート機能追加。 マルチファイルインポート時レイヤー分けオプション追加。 2004年4月 操作説明を Ver.6対応とした。 インポートは、標準機能として[ファイル]・[インポート]・[DM(デジタルマッピング真位置データ)メニューを追加。 2004年7月 拡張 DM に対応 2004年10月 「Pen」「Symbol」フィールド廃止。 「分類コード+図形区分」フィールド追加。 2005年1月 「DmExport」コマンドにパラメーターを追加しました。
エクスポート時、図郭レコードに世界測地系情報を追加。 2002年12月 世界測地系でのエクスポート機能追加。 マルチファイルインポート時レイヤー分けオプション追加。 2004年4月 操作説明を Ver.6 対応 とした。 インポートは、標準機能として[ファイル]・[インポート]・[DM(デジタルマッピング真位置デー タ)メニューを追加。 2004年7月 拡張 DM に対応 2004年10月 「Pen」「Symbol」フィールド廃止。 「分類コード+図形区分」フィールド追加。 2005年1月 「DmExport」コマンドにパラメーターを追加しました。
2002年12月 世界測地系でのエクスポート機能追加。 マルチファイルインポート時レイヤー分けオプション追加。 2004年4月 操作説明をVer.6対応とした。 インポートは、標準機能として[ファイル]・[インポート]・[DM(デジタルマッピング真位置デー タ)メニューを追加。 2004年7月 拡張 DM に対応 2004年10月 「Pen」「Symbol」フィールド廃止。 「分類コード+図形区分」フィールド追加。 2005年1月 「DmExport」コマンドにパラメーターを追加しました。
マルチファイルインポート時レイヤー分けオプション追加。 2004年4月 操作説明をVer.6対応とした。 インポートは、標準機能として[ファイル]・[インポート]・[DM(デジタルマッピング真位置デー タ)メニューを追加。 2004年7月 拡張 DM に対応 2004年10月 「Pen」「Symbol」フィールド廃止。 「分類コード+図形区分」フィールド追加。 2005年1月 「DmExport」コマンドにパラメーターを追加しました。
2004年4月 操作説明をVer.6対応とした。 インポートは、標準機能として[ファイル]・[インポート]・[DM(デジタルマッピング真位置デー タ)メニューを追加。 2004年7月 拡張 DM に対応 2004年10月 「Pen」「Symbol」フィールド廃止。 「分類コード+図形区分」フィールド追加。 2005年1月 「DmExport」コマンドにパラメーターを追加しました。
インポートは、標準機能として[ファイル]・[インポート]・[DM(デジタルマッピング真位置データ)メニューを追加。 2004年7月 拡張 DM に対応 2004年10月 「Pen」「Symbol」フィールド廃止。 「分類コード+図形区分」フィールド追加。 2005年1月 「DmExport」コマンドにパラメーターを追加しました。
タ)メニューを追加。 2004年7月 拡張 DM に対応 2004年10月 「Pen」「Symbol」フィールド廃止。 「分類コード+図形区分」フィールド追加。 2005年1月 「DmExport」コマンドにパラメーターを追加しました。
2004年7月 拡張 DM に対応 2004年10月 「Pen」「Symbol」フィールド廃止。 「分類コード+図形区分」フィールド追加。 2005年1月 「DmExport」コマンドにパラメーターを追加しました。
2004年10月 「Pen」「Symbol」フィールド廃止。 「分類コード+図形区分」フィールド追加。 2005年1月 「DmExport」コマンドにパラメーターを追加しました。
「分類コード+図形区分」フィールド追加。 2005年1月 「DmExport」コマンドにパラメーターを追加しました。
2005年1月 「DmExport」コマンドにパラメーターを追加しました。
詳しくは「4. コマンド処理」をご覧ください。
2005 年 2 月 「6.PC-MAPPING の設定と DM フォーマットとの対応」に拡張 DM で追加されたフィール
ドを赤字記載しました。
2005 年 4 月 「5-7. 拡張 DM 対応に伴なう一部方向データの扱い変更について」追加。
2006年2月 拡張 DM データエクスポート時に、「分類コード」と「図形区分」の整合チェックを行なう機
能を追加。
例えば、「建物」は、分類コード 3001、図形区分 00 の場合、データタイプは E1 で取得し
ます。
この際、人力ミス等でデータタイブはE2とした場合のチェックが行なえます。
2018.05.14 操作説明を Ver.7 対応とするとともに、1つにまとめた。
・イノアックへ作成時に「糸」指足(1」えるよりにした
• 3*6.(拡張/DM 分類・区分ユート登合便査」時のユート分類を補八 1/500.1/1000.1/2500.1/5000.比ま
1/300,1/1000,1/2000,1/3000 とした。 2018 06 11
2010.10.11 操作説明者「DMI / ークノオーマットとの対応」 誤記を修正 2010.12.17 場 構 佐 説明な Ware 2 社内
2013.12.17 操作説明を Ver.o 対応 CUC。 2021.07.26 「一如改正 今和 9 年 9 月 91 日 国土 広通劣生子 第 401 号 に対応
2021.07.20 「一部以正 中相 2 中 3 月 31 日 国上父通省 日小 第 401 方」に対応。
2020.00.10 [3-5 $\frac{1}{2}$ 4.DW アークエクスポート]
→エクスポート時 明示的に[Vor 2]と] て出力するオプション追加
2023 04 06 [一部改正 合和5年 3 日 31 日 国土态通省生示 第 950 号记 动应
2024 02 28 13-5 メッシュ指定に FA DM データエクスポート